



大きくなあれ！交流の苗

5/10 堀金児童クラブで野菜づくり

農家の女性などをつくるおひさまクラブ（平林トモ子会長）と堀金児童クラブは5月10日、堀金公民館で野菜づくりを始めました。この取り組みは、野菜づくりを通じてお互いのかかわりを深めようという狙いがあります。平林会長は「都会にはない安曇野ならではの交流を図りたい。地域に戻ったときに、心の通ったあいさつができることを楽しみにがんばりたい」と抱負を話しました。収穫は7月下旬になる予定です。



私たちのまちを守って

5/13 小学生が犀川護岸工事を見学

明南小学校の5年生61人が5月13日、明科築堤護岸工事の現場見学会を行いました。この見学会は、公共事業への理解を深めてもらうと同時に、自らが生活する地域の川に関心を寄せてもらおうと、市と国土交通省千曲川河川事務所が主催したものです。見学会を行った明科中川手地区（犀川橋下流の右岸）は、犀川の水が堤防に強く当たる場所で、強化対策を行ったものです。子どもたちは、工事の説明を受けたほか、完成後は水没して見られなくなる巨石に、「宝」、「恵み」などの願いを記し、工事の完成を願いました。

歌い継ぐ 藤森秀夫の心

5/5 第47回童謡祭り

子どもの日の恒例行事である「童謡祭り（同実行委員会主催）」が5月5日、豊科公民館ホールで開かれました。今回で47回目を迎えるこの催しは、「めえめえ子山羊」の作詞者として知られる豊科出身の詩人・藤森秀夫（1894－1962）を顕彰するために、毎年開かれています。

この日は、藤森秀夫の作品披露のほか、第29回作詞作曲コンクール入選者の表彰、演奏会が行われました。このうち、作詞作曲コンクールでは、市内の小中学校から募った全15点の作品の中から、最優秀賞には、三郷小学校6年の関根真澄さんが作詞し、東城華菜さんが作曲した「心の輝き・・・Shining of heart」が選ばれました。関根さんは、仲間一人一人が輝いている姿をイメージして作詞。東城さんは、優しいメロディーにすることに心をくばり、作曲しました。この日、歌を披露した三郷小学校合唱団のメンバーの一人は、「歌っていると自然と笑顔になった」と満足そうに歌の感想を話してくれました。



「安曇野」をペロリ。

5/19 市内小中学校の学校給食で「地域食材の日」

市の給食センターでは、地域食材を多く用いた給食を提供する「安曇野の日」を月に1回設けています。この取り組みは、地域の食文化への理解や、食材への感謝の心をはぐくむために行っているものです。「安曇野の日」である5月19日、豊科北小学校4年2組の児童33人は、担任の先生から食材の説明を受けた後、地元産の信州サーモンやしめじを使った「カップ焼き」、りんごジュースを使った「りんごゼリー」など5品からなる給食を味わいました。友だちとの会話を楽しみながら食事を楽しんでいた永沼双葉さんは、「カップ焼きがとってもおいしかった。おいしい給食に感謝します」。担任の曾山啓教諭は、「自分たちの暮らす地域で取れたものは思い入れがある。安曇野には『おいしいものがたくさんあった』という原体験になれば」と話してくれました。

春告げる 早春賦のハーモニー

5/4 あづみの公園早春賦音楽祭

あづみの公園早春賦音楽祭（同実行委員会主催）が5月4日、国営アルプスあづみの公園で開かれました。日本を代表する唱歌「早春賦」は、安曇野の春がモチーフになったといわれています。この日は1万5,340人が来場。フォークグループのビリーバンバン、小中学校の合唱団、公募による演奏者など、さまざまなジャンルの音楽愛好者が集い、歌や演奏を披露しました。また、今回の特別企画として、公募による合唱団を結成。飛び入りの参加者も加わり、100人以上の大合唱が、北アルプスのふもとに響きました。



食と農で 命感じて

5/25 三郷小学校の田んぼでアイガモ放鳥

地域ボランティアで作る「チームみさとファーム」と三郷小学校はこのほど、アイガモ農法を体験する授業を始めました。体験するのは5年生195人。20人ほどのボランティアとともにアイガモの小屋作り、田植え、収穫などに取り組みます。アイガモは水田の雑草や害虫を食べるなど、米作りを助けてくれます。5月25日には、5年4、5組の児童が小屋を田んぼに設置したのち、アイガモ30羽を放ちました。5組担任の山田忍教諭は、「命と食とのかかわり、地域とのかかわりを感じてもらえれば」と期待を寄せています。